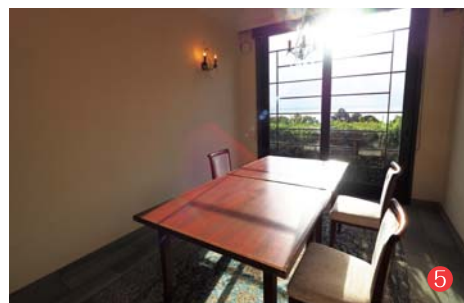
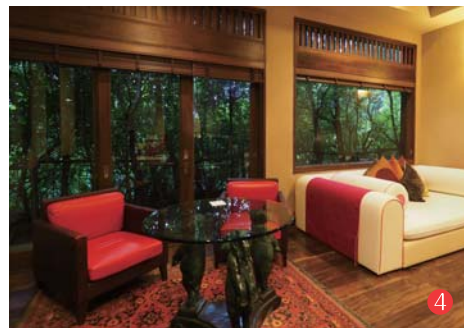


異国情緒漂う プライベート空間

お宿情報

「石山離宮 五足のくつ」

■住所:熊本県天草市天草町下田北2237
■Tel:0969-45-3633
■全15室
■料金:1泊2食33,150円～
(消費税・入湯税込)
※料金は2022年1月時点



5つの橋を渡り、ぽっこり浮かぶ多島海を眺めながら車を走らせる。2018年に潜伏キリシタン関連遺産として世界文化遺産に登録されたこの地域に、エキゾチックな雰囲気漂うリゾートがある。東シナ海を望む山の上に佇む一軒宿「石山離宮 五足のくつ」だ。

自然の中で味わう雅な異国文化

東シナ海に沈む夕日が美しい。いつか訪れたアジアのリゾートにも似ている。そう感じるのは、南洋の植物が生い茂る森のせいだろうか。

温泉宿「五足のくつ」は雲仙天草国立公園内にあり、1万坪以上の敷地に15の離れが点在している。

宿の名前は明治の頃に与謝野鉄幹、北原白秋ら5人の歌人が、東京から九州西部を旅した記録を新聞に寄稿した紀行文「五足の靴」から付けられた。

客室は天草の漁村をイメージしたヴィラA、バルコニーから海の眺望を楽しむヴィラB、中世の天草をイメージしたヴィラCがあり、全ての部屋に源泉かけ流しの露天風呂を備える。

「湯治」など、昔から日本人にとっての温泉の癒しは森の中にあった。だから、風呂は海が見えないようにつくっている」と話すのはオーナーの山崎博文さん。泊まったヴィラCの露天風呂からは海が少しだけ見えるものの、豊かな森に抱かれる感覚の方が強い①。ナトリウム・炭酸水素塩泉の湯はつるつるとした感触だ。

山崎さんは明治21年に創業した下田温泉「伊賀屋旅館」の6代目。29才で温泉街から少し離れたこの土地を買い求め、39歳で「五足のくつ」を開業。今年で20周年を迎える。

今では増えつつあるが、当時は大浴場のない離れの宿は珍しかった。食事処も個室。完全プライベートの空間と

時間が楽しめる宿は、コロナ禍でさらに人気を集めた。

厳かなグレゴリオ聖歌が流れる廊下を歩いて食事処「天正」へ⑥。さらにめくシャンドリアが異国情緒を漂わせる。料理は天草灘の海域から届く新鮮な食材を使ったお造りやミズイカの握り寿司、スズキのオランダ煮、アイナメの唐揚げなど。魚の種類はさまざま。

海外へ思うように行けない今だからこそ、まだ見知らぬ国内へ。東洋と西洋の文化が融合した文化・歴史をもつ天草ならではのエキゾチックリゾートに出かけてみてはいかがだろうか。



天草では1年を通じて注連縄(しめなわ)を飾る。江戸時代の禁教下、キリシタンではないことをアピールするための工夫が風習となって根付いたそう



「海の天主堂」といわれる崎津教会



のどかな漁村風景は昔から区画がほとんど変わっていない

キリシタン弾圧の歴史を伝える 天草の崎津集落

江戸幕府の禁教令のもとで240年にわたって密かに信仰を継承し、日本独特のキリスト教信仰を育んだ集落。ユネスコの世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の一つ。教会内部の撮影は不可。

■料金:無料。教会の見学は要予約
■天草宝島観光協会 Tel:0969-22-2243

周辺MAP 熊本県・下田温泉



おススメスポット

Profile

CHIKAKO NOZOE

旅行作家 野添ちかこ

観光の専門紙記者を経て、2006年からフリーで活動を開始。NIKEIプラス1(日本経済新聞社)『湯の心旅』、旅の手帖(交通新聞社)『会に行きたい温泉宿』などで温泉記事を連載中。著書に『千葉の湯めぐり』。3つ星温泉ソムリエ、温泉利用指導者(厚生労働省認定)



熱した阿蘇の溶岩石で焼いた幻の地鶏「天草大王」は噛めば噛むほど味わい深い



ヴィラCの朝食は和・洋食から選択。鮮やかな陶磁器を使った盛りつけが美しい